

各特別支援学校の地域支援センターの地域支援コーディネーターが参加する年3回の地域支援コーディネーター研究協議会と連動し、研究を進めました。協議会のメインテーマは、平成29年度に引き続き、『**チーム学校・地域力向上へのサポート充実～各地域支援センターにおける相談をより効果的に行うために～**』で実施しました。その上、以下のサブテーマを設定し、協議を深めました。

### 【サブテーマ】

- ① 「学校現場が主体的にできるアセスメントの充実」
- ② 「地域支援センターのコーディネーターが地域支援で大切にしていきたいこと」

### 【年間スーパーバイザー】

清水里美 氏（平安女学院大学短期大学部 教授 府専門家チーム）

### 【参加者】

- ・ 京都府教育庁指導部特別支援教育課 担当指導主事
- ・ 府立特別支援学校地域支援センター 地域支援コーディネーター
- ・ 京都府スーパーサポートセンター スタッフ



# 【テーマ】学校現場が主体的にできるアセスメントの充実

特別な支援を必要とする幼児児童生徒への適切な指導・支援につなげるためには、『的確なアセスメント』が重要。

そのアセスメントの充実また学校（園）が主体的に実施できるサポートが必要



研 修

学校現場が主体的にできるアセスメント

清水里美 氏（平安女学院大学短期大学部 教授 府専門家チーム）

交 流

学校現場が主体的にできるアセスメントの  
充実に向けた地域支援センターの工夫



研修では、事例をもとにグループで検討することを通じてアセスメントの方法を学びました。各地域支援センターにおける相談をより効果的に行うために、上記テーマの現在の工夫について交流を行いました。その中では、大きく以下の4点が出されました。

- ・研修会企画による発信
- ・相談活動を通じてアセスメントの視点を発信
- ・書式（相談票・アセスメント票の見直し）
- ・アセスメントツール活用を協働で実施 など



それぞれのよい工夫を共有し、次年度以降のチーム学校・地域力向上にむけた各地域支援センターの運営につなげていきます。